



2022年1月

## 2022年アジア連帯委員会（CSA）年頭のご挨拶

あけましておめでとうございます。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

アジア連帯委員会（以下CSAと略す）は、連合、会員組織および個人会員の皆様からの物心両面の支えによって活動を継続しています。本年も変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

CSAは、1981年4月16日に「インドシナ難民共済委員会」として発足し、その後活動内容の変化に伴い3度名称変更して現在に至り、昨年4月に結成40年を迎えることができました。今日までの長きにわたるご支援ご協力を改めて衷心より感謝申し上げます。

さて、この1年をふりかえってみると、新型コロナウイルス感染による脅威が大きく影響しました。2021年1月8日から前年に続き緊急事態宣言が出され、3月21日で一旦解除されたものの、感染力の強いデルタ株の蔓延によって4月25日からまた緊急事態宣言が出されました。そして適用地域に変化はありましたが9月30日まで継続されました。この間、日本国内では8月に感染者の第5次のピークを迎えましたが、ワクチン接種や国民の行動抑制・マスク着用などによって収束傾向となり緊急事態宣言終了後は感染者数が急減し落ち着きを見せています。一方、世界では収束傾向を見せていない国も多く、さらに新たにオミクロン株が発見されるなど感染への不安は収まっていません。

CSAは、国内および支援相手国の感染状況などを踏まえ、従来の活動を大きく見直さざるを得ない状況となり、会員組織の皆様と相談しながら対応を進めてきました。

以下に、CSAとして重点的に取り組んでいる「救援衣類を送る運動」「ラオス初等教育の改善」「ラオス高等教育の改善」についての近況と今後の方針について触れますのでご理解とご協力をお願いします。

### 1. 救援衣類を送る運動

1981年から取り組んでいるこの運動では、毎年集約された善意の救援衣類を、タイ・ラオス両国の要請に基づき必要とする人々に配布し、両国政府から感謝されています。

2021年秋に集約予定であった救援衣類を送る運動は、新型コロナ感染状況を踏まえ2020年秋に引き続き見送らざるをえませんでした。これに代わる支援として、タイ・ラオスで必要とする人々や日本国内在留者団体などに感染防止のためのマスクを寄贈しました。

今年は秋に救援衣類を集約する方向で進め、合わせて輸送募金とのバランスを取りながら取り組んでいきます。

### 2. ラオス初等教育の改善（小学校建設・補修活動）

1995年の第1校目建設からこれまでに小・中学校24校を建設し寄贈してきました。また、古くなった校舎を父兄の労務提供も求めながら計画的に補修しています。

新たな校舎建設・寄贈は、2014年以降できていませんが、現地から要請があった学校での補修工事は継続して実施しています。

今後も必要な補修を行う一方、現地からの要請も踏まえ新たな校舎建設・寄贈に向けた検討を進めていきます。



会長 澤田和男

### 3. ラオス高等教育の改善（サンティパーブ高校生寮支援）

2002年に高校生寮を建設・寄贈するとともに、そこでの生活と学業を支援することにより、貧困などの事情によって進学が困難な生徒が高等教育を受けられることを可能にしています。

現在の寮生は90名、これまでの卒業生は510名に達し、総じて優秀な成績で日本への留学も果たすなど国を支えるリーダーとして成長しています。また昨年は、トイレの改修工事を行うとともに、卒業式への対応、マスクの寄贈、3年に一度の現地行政との高校生寮運営協定書の締結などを行ってきました。

今後もこの支援を続けるとともに、ラオス政府や学校関係者に対しては引き続き自主運営の実現を求めています。

このように私たちの活動は、そこに住み、そこで学んでいる人達にとっては無くてはならないものとなっています。より多くの皆さんに、この活動の内容を知っていただき、ご協力をいただけるよう努力していきますので、本年も従来に増したご支援をよろしくお願いいたします。

最後に、2022年が皆様にとって良き一年となることを切望し、年頭の挨拶とさせていただきます。

アジア連帯委員会（CSA）会長 澤田 和男

## 今年度の事業計画について

事務局長 鈴木 隆

### I. 活動を取り巻く環境変化と事業の方向性

CSAは、昨年結成40周年を迎えました。今日のCSAは、タイ、ラオスの衣類を必要としている人々へ中古衣類を提供する「救援衣類を送る運動」、ラオスの初等教育支援事業である「小学校建設・補修」、さらに中高教育支援の「サンティパーブ高校生寮建設と運営支援」を中心に、支援団体や支援者の募金、そして連合の「愛のカンパ」の支援を受けて事業を展開しています。CSA40周年は、「ウィズコロナ」等、私たちを取り巻く環境の激変にともなう適切な対応が求められます。この世界の変革を機に事業の検証を行い、求められる変化に対応し、「継続の力」の発揮と「新たな事業の構築」を着実に推進します。

2021年度からの事業は、アジアの困窮する人々への支援を視野に、当面の主要事業はインドシナ半島諸国における支援活動を主軸とします。これまで積み上げてきた事業の蓄積・ノウハウを活かし、その国の発展に寄与する教育環境の整備と充実化に貢献していくことやコロナ禍の救援活動等、新たな慈善事業も行います。

また、継続実施している事業の必要な見直しを行いながら、より効果的な事業の展開を行い、その為に連合および支援団体、支援者との連携を一層緊密に行い、支援国の人々の衛生や教育環境の向上等を目的に、積極的な活動を展開します。

### II. 主要事業の取り組みについて

#### 1. 救援衣類を送る運動とコロナ禍にともなう代替支援について

1981年から取り組んでいる「救援衣類を送る運動」は、継続的に実施しています。この運動は多くの賛同者から善意の集約である救援衣類を、CSAに要請のあった各国の関係省に寄贈し、その救援衣類は必要としている人々に配布されます。現地からは毎年敬意と感謝の声が届いております。

第37次救援衣類を送る運動の基本方針は、支援団体や支援者に「衣類提供と輸送募金との一体的な取り組み」を行うことを2021年3月開催の常任理事会及び評議員会において確認しました。この決定以降、急速な新型コロナウイルスの世界的な深刻化により、集荷日程を延期せざるを得ない状況となりましたが、その代替支援として輸送募金の有効活用として、昨年以上に感染拡大が深刻化している、タイ・ラオスへ現地で不織布マスクを調達し、タイ社会開発福祉省とラオス保健省に寄贈しました。さらに、国内においては、在日本ベトナム人協会、並びにカンボジアコミュニティーに寄贈するなど、継続的な支援を実施しています。

2022年の救援衣類を送る運動は、現在海上輸送状況の調査等を進めています。

また、輸送募金は、衣類の輸送費のみならず、代替支援のマスク調達費にも必要となっていますので、引き続き輸送募金へのご理解・ご支援をよろしくお願い致します。



ラオス保健省寄贈式  
(中央左 保健省副大臣 中央右 C S A ラオス人協力者)



タイ社会開発福祉省マスク寄贈式  
(左担当局長 右 C S A タイ協力者関口氏)



日本在住ベトナム人協会 C S A 支援マスク配布  
(協会の会長代理 右から学生へ)

マスク寄贈の枚数と金額

タイ	150,000 枚	¥640,000
ラオス	150,000 枚	¥920,000
日本国内定住者団体		
ベトナム	24,000 枚	¥350,000
カンボジア	6,000 枚	¥ 88,000

2. ラオス初等教育への支援について<小学校建設・補修>

1996年インドシナ難民の救済を主眼としたNGOから、アジアの開発途上国への支援を視野に、名称を「アジア連帯委員会」として新たな事業展開を行いました。アジア連帯委員会草創期のキーワードとして「ラオスの識字率の向上」が目標の一つとして掲げられていました。教育支援活動の中心である学校建設は、1995年のクッサンバット村小学校(1番目校)の建設からその後の2014年までに、小・中学校を毎年1~2校建設し、現在24校を寄贈することができました。

ラオスの教育制度は日本と同様に小学校・中学校は義務教育です。しかし、首都ビエンチャンを離れた山間部の村々の子供達は、小学校が通える距離に無い為に、義務教育でありながら学校に行くことができず、大切な初等教育が受けられない子供達が依然として数多くいます。

2015年国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ=SDGs」が採択されました。この決議は地球上の「誰一

人取り残さない」ことを宣しています。

SDGs 開発目標のひとつでもある「教育」問題に貢献することを標榜するCSAは、なんらかの事情で教育を受ける権利を有しながら、学校に行く事ができない子供達のために、小学校建設事業を継続します。CSA結成50周年に向けた短期的な目標の一つとして25番目校の建設具体化を目指します。

また、今年度中に既存寄贈校の補修計画として、ラオス・シーセンマイ中学校(9番目校)の屋根・天井の補修を行います。



シーセンマイ中学校 C S A 9番目校2021年の現状

### 3. ラオス高等教育の支援について<サンティパーブ高校生寮支援>

ラオスにおける教育支援活動のもう一つの柱であるサンティパーブ高校生寮の支援事業です。2002年の建設・寄贈から今年で19年目を迎え、卒寮生はすでに500名を超えています。現在、高校生寮には第19期生30名の入寮により、90名(1学年30名で各30名)が在籍しています。ラオスの関係省庁や学校関係者に対し、自主運営の実現に向けた努力を求めています。ラオス政府は慢性的な財政難を抱えているため、寮生活の支援までは行き届かないのが実情となっています。昨年7月に向こう3年間の寮運営の協定書の再締結を行いました。今回の協定

内容はこれまで一貫して対応してきた支援事項の継続を確認しました。

また、ラオスは新型コロナウイルスによるロックダウンが長期間続いており(2021年12月現在)、国民生活は大変厳しい状態にあります。

休校も断続的に行われCSAが寄贈した寮の生徒の多くは帰省できずにいます。自習を続ける寮生や先生に一昨年に引き続き不織布マスクを支援し、校長先生をはじめ先生、生徒から感謝の声が寄せられました。

CSAは、このような支援を本年も引き続き行います。



CSAから送られたマスクを着けて寮をバックに集合写真



サンティパーブ高校寮内で校長先生(中央左)を囲んで集合写真 CSA協力者で寮生の先輩(中央右)に陸送してもらいました

### 本年もよろしくお願ひ致します 役員一同

会 長	澤 田 和 男	アジア連帯委員会
副 会 長	山根木 晴久	連合 総合運動推進局長
事 務 局 長	鈴 木 隆	アジア連帯委員会
常 任 理 事	森 啓 記	連合 総合組織局 連帯活動局長
//	田 中 智	UAゼンセン 常任中央執行委員
//	榎 本 朋 子	自治労 国際局長
//	高 橋 英 司	電機連合 中央執行委員 国際部長
//	木 村 拓 志	JAM 組織グループ グループ長
//	前 迫 忠 之	基幹労連 事務局次長
//	寺 澤 環	日教組 国際部長
//	大 方 幹 子	情報労連 組織連帯局長
//	大 澤 健	連合東京 副事務局長
監事・会計監査	大 濱 直 之	UAゼンセン 副書記長
//	中 島 基 史	自動車総連 国際局局長

# 募金者名・募金額の報告

期間：2020年12月1日～2021年11月30日

(順不同)

## 《救援衣類輸送募金》

〈団体名〉

基金労組様	I H I 労連堺支部様	全日産販売労組様
全国ガス労連様	とりせん労働組合様	日産オートモーティブテクノロジー労組様
日産労連様	日本電産トソー労組様	マレリ労組追浜分会様
堀硝子労組様		

団体合計 **¥375,663**

〈個人名〉

塩坂博史様	西村正信様	中澤信之様	堀江渥子様
横田泰文様	倉田莉子様	田口敬子様	萬家重明様
河瀬義則様	相馬末一様	内田成子様	澤田和男様
宮内博文様	打田照純様	並木賢一様	鈴木隆様
山岡みゆき様			

個人合計 **¥74,000**

救援衣類輸送募金 合計 **¥449,663**

## 《学校建設・補修募金》

〈団体名〉

基幹労連様	岡山県貨物運送労組様	キャタピラー日本労組様
カネボウ労働組合様	サンデン交通労組様	シンフォニアテクノロジーグループエニオン様
三八五労組様	モンテローザ労組様	全九州産業交通労組様
J P 労組 東京様		

団体合計 **¥1,259,260**

〈個人名〉

塩坂博史様	山岡みゆき様	中澤信之様	堀江渥子様
間宮悠紀雄様	山田ささえ様	田口敬子様	熊谷由美子様
宮内博文様	倉田莉子様	並木賢一様	村山義光様
澤田和男様	鈴木隆様		

個人合計 **¥117,379**

学校建設・補修募金 合計 **¥1,376,639**

## 《高校生寮支援募金》

〈団体名〉

J A M 様	基幹労連様	住友重機械労連様
---------	-------	----------

団体合計 **¥480,000**

〈個人名〉

宮内博文様	倉田莉子様	並木賢一様	澤田和男様
佐藤正行様	中澤信之様	堀江渥子様	鈴木隆様
山岡みゆき様	田口敬子様	有村利範様	

個人合計 **¥73,104**

高校生寮支援募金 合計 **¥553,104**

募金総合計

**¥2,379,406**

下記会員の皆様にも、年会費としてご支援いただきました。

期間：2020年12月1日～2021年11月30日

(順不同)

〈団体名〉

連合	様	アルペン労働組合	様	U A ゼンセン	茨城県支部	様
U A ゼンセン	様	カネボウ労働組合	様	U A ゼンセン	群馬県支部	様
自治	様	キャタピラー日本労組	様	U A ゼンセン	千葉県支部	様
電機連合	様	ソラストユニオン	様	U A ゼンセン	東京都支部	様
J A M	様	フー ド 連 合	様	U A ゼンセン	栃木県支部	様
基幹労連	様	ポケットカードユニオン	様	U A ゼンセン	山梨県支部	様
日教組	様	ホテルラングウッド	様	(一社)全国労働金庫協会		様
情報労連	様	モンテローザ労組	様	(公財)富士社会教育センター		様
連合東京	様	ルックユニオン	様	SMBCコンシューマーファイナンス労組		様
I H I 労連	様	(一財)日本労働会館	様	こくみん共済coop<全労済>		様
印刷労連	様	(公財)総評会館	様	シノフォニアテクノロジーグループユニオン		様
A N A 労組	様	(株)友愛会館	様	セントラル硝子労働組合		様
基金労組	様	(株) N e t y	様	(株)コンボーズ・ユニ		様
航空連合	様	共済ユニオン東京千葉	様	三菱自動車工業労組		様
交通労連	様	国税労組総連合	様	三菱重工グループ労連		様
J R 連合	様	三井 E & S 労連	様	中央放送株式会社		様
J P 労組	様	住友重機械労連	様	東亜道路労働組合		様
J P 労組東京	様	全国ガス労連	様	東京交通労働組合		様
自動車総連	様	全日本海員組合	様	日本インタープライス・メンテナンス(株)		様
森林労連	様	凸版印刷労連	様	明治安田生命保険相互会社		様
生保労連	様	日産労連	様	有限会社勤労者旅行会		様
損保労連	様	連合茨城	様	連合近畿地方ブロック協議会		様
電力総連	様	連合神奈川	様			

団体合計 **¥2,710,000**

〈個人名〉

塩坂博史	様	熊谷由美子	様	相馬末一	様	内田成子	様
横田泰文	様	佐藤正行	様	村山義光	様	福田美秋	様
河瀬義則	様	山岡みゆき	様	多田とよ子	様	並木賢一	様
間宮悠紀雄	様	山田ささえ	様	打田照純	様	堀江渥子	様
岩附宏幸	様	小池孔子	様	中澤信之	様	有村利範	様
吉野雅彦	様	水野清弘	様	長石春彦	様	鈴木隆	様
宮内博文	様	西村正信	様	田口敬子	様	澤田和男	様
宮本亮	様	倉田莉子	様	渡邊ひな子	様	萬家重明	様

個人合計 **¥102,000**

会費合計 **¥2,812,000**

募金・会費総合計

**¥5,191,406**



NGO団体

アジア連帯委員会(CSA)

〒105-0014 東京都港区芝2-20-12 友愛会館14階

TEL. 03 (3769) 4177 FAX. 03 (3769) 4178

E-メール info@ngo-csa.jp ホームページ www.ngo-csa.jp